

薬師如来木造及び胎内仏

先祖供養のため、彫られたもの。
胎内仏は、火災で焦げた木造より出現。
厨子幅 3.5cm、高さ 13cm



十三仏

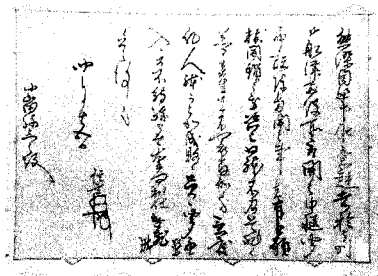
東京都小山田家桂林寺へ奉納
小山田家菩提寺金鳳山普門寺宝物、寛永10年(1636)21代小山田吉隆が先祖供養の為に之を造る。



小山田越中守信有画像

(都留市指定文化財)「小山田氏画像補装記」(長生寺蔵)に文政10丁亥年(1827)仲秋水府侍臣小山田勝益が、小山田氏祖の画像の損傷が甚だしいので再表装して寺に納めたことが記してある。

出展作品の一部です



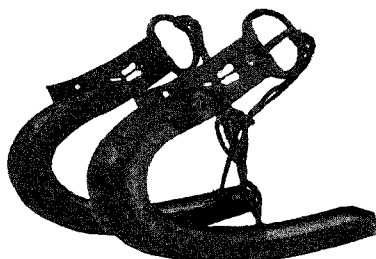
武田信玄書

14代小山田信隆(弥太郎)の弟(快義)の修験道小野流阿闍梨位許可状。



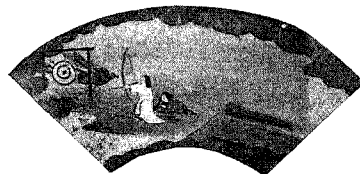
錦絵

川中島合戦のようす。左は信玄、右は謙信。



あぶみ 鏡一組

大月市初狩町、杉本幸徳家家伝の品で、小山田信茂が用いたと伝えられる。



扇面「子女弓稽古の図」

緑銀塗彩。(室町時代)

江戸情緒漂う大名行列

夏の暑さが残る九月一日の青空の下、たくましくヒゲをたくわえた奴さんの「ヨイヤマカ、ヨイ！」という力強い掛け声とともに白い毛やりが宙に舞った。拍子木と金棒の奏でるリズムにのり、剽軽に踊る奴さん、勇ましい徒士、弓、槍、鉄砲を手にした殿様警護の各隊、馬上姿の凛々しい殿様、楚々と従い彩りをそえる姫様、腰元一行と行列は続き、平日の実施にもかかわらず浴道につめかけた多くの方々から熱烈な声援と盛大な拍手を受けました。

今年、都留市が招聘し市内中学校で英会話の授業を行っているジェームズ・インク先生も立派な徒士姿となって参加し、昨年同様市内六社の女子社員扮する姫様腰元一行ともども見物の人々を魅了し、たいへんな好評を博しました。

また、秋元候ゆかりの地である群馬県館林市から四十名をこえる方々が来市し、江戸情緒漂う大名行列に見入り、自分達の先祖の姿へと思いを寄せていた様子でした。

暑い中一日出演していただいた方々、御協力いただいた関係諸団体の方々に、心から感謝いたします。

